

いのちの御霊の支配 (2)

【聖書箇所】 8章 1～2節

はじめに

●聖書はしばしば「聖霊に満たされなさい」「御霊によって歩みなさい」「聖霊に導かれなさい」「御霊によって生きなさい」と勧めています。使徒の働きを読むと、弟子たちは聖霊に満たされ、聖霊に導かれ、聖霊に励まされ、聖霊に押し出されてすばらしい神の働きとその実を残しています。この事実は今日においても変わる事はありません。昨日も今日も変わることのない神のことは、ローマ人への手紙 8章 2節で、「キリスト・イエスにあるいのちの御霊の原理が、罪と死の原理からあなたを解放した」という事実を宣言しています。しかし、そのことを頭で理解することと、実際に経験することとは別のことです。

●8章の最初のことは、「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理からあなたを解放したからです。」－このみことばを中心に、今回は「キリスト・イエスにあってもたらされたすばらしい救い(解放)」について思いをはせてみたいと思います。

1. キリスト者のうちにある対立する二つの性質

●イエス・キリストを自分の救い主として信じた人々の多くは、信じて間もなく、ある経験をします。その経験とは、自分の心の中に互いに相容れない二つの性質があるように見えることです。それはまず皆が平気でやっているからという理由でやっていたことに良心のとがめを感じるようになることです。神を知って、神に従って行こうと思えば思うほど、自分が偽善者のように感じはじめるようになります。時には親切で、忍耐深く、素直ですが、ある時はとても嫉妬深く、短気で、意地悪で、頑固になります。そして信仰生活が上がったり下がったりを何度も経験します。ある日の霊的状态はまるで山頂にあるかのようにすが、別の日の霊的状态は最悪であったりします。

●東北にある高速道路で、あるトンネルをくぐる時、ある表示を目にしました。その表示にはこう記されていました。「このトンネルは分水嶺になっています。降った雨は、この山を境に日本海と太平洋にそれぞれ川となって流れます。」と。キリスト者になると、あるときは人を愛し、忍耐をもって我慢できるのに、あるときは愛に欠け、忍耐を失い、短気になってしまうという、あたかも分水嶺を歩いているかのような状態を経験するのです。

●キリスト者はすでに新しい性質を与られているために、神のみこころに反することをすると、後悔して自責の念にかられるのです。自責の念にかられますから十字架の血潮を仰ぎます。そして罪の赦しをいただいて再び霊的な喜びを回復して、主にある幸いを経験します。しかしながら、そのような幸いはそう

長くは続かないのです。再び、失敗を繰り返し、心を痛めるのです。またそのたびに、もうふたたび過ちを繰り返すまいとさらなる強固な決意と誓いを主の前にして、自分を縛るのです。そしてその決意も空しく、願いに反して失敗してしまうのです。またしても自責の念にかられるのです。

●決して驚かないようにしてください。こうした戦いが起こるのはその人が新しく生まれ変わっている証拠なのです。キリスト者の内には二つの性質があります。新しい性質、古い性質です。この二つの性質の戦いがローマ書 7 章にありありと描かれています。もう一度、7 章 18～23 節を読んでみましょう。ここに記されているのは、すべてのキリスト者に共通した経験が記されています。

●善をしようとしてもそれができず、ある誘惑がやってくると、語るべきことでないことを語り、すべきではないことをしてしまうのです。ですから、ガラテヤ書 5 章 17 節にこう記されているのです。

【新改訳改訂第 3 版】ガラテヤ人への手紙 5 章 17 節

なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。

2. 意志は法則に打ち勝つことができない

●ローマ書 7 章 15～20 節の鍵になっていることは「～したい」「～したくない」「～したいという願いがある」とあるように、すべて「意志」です。ところが、この「意志」は「からだの中にある罪の律法のとりこになっている」とあります。自分の意志の力では勝利を見出すことはできない！とパウロが言っています。なぜなら罪は「原理」、つまり「法則」だからです。

●「律法」(ノモス)は「法則」「原理」とも訳されます。ここで大切なポイントは「罪は法則」だということであり、私たちの意志には法則に打ち勝つ力がないということです。このことを知ることが大切です。このことを知るまで、私たちは何度も空しい失敗を繰り返すのです。意志は人間の力です。しかし法則は自然の力です。この自然の力は私たちの感情とか意志とは何ら関係なく働くのです。

●法則は常に働いている力です。昨日働いたけれども、今日は働いていないということでは法則とは言えません。例外を許しません。不変であり、いつでも、どこでも、誰に対してでも働いている力なのです。「引力の法則」がそれです。例えば、私がこの聖なる書物、すなわち聖書を持ち上げるとします。この持ち上げようとする力は私の意志です。しかし引力の法則は私の意志とは関係なく下へと引きつける力が働きます。別に私がそれを引き下ろす必要はありません。黙っていてもその下に落ちようとするのです。問題は意志と法則が争う時、どちらが勝つかということです。普通は、最初、意志が勝つかのように見えます。私は自分の意志で聖書を持ち上げていますから、落ちることを許しません。私の意志が勝っています。しかし一時間そうしていると、不安が襲ってきます。だんだん手は重くなってきます。聖書が別に重くな

ってきているわけではありません。それを持ち上げている手が疲れて来て、重く感じているのです。それを一日中持ち上げていなさいということになれば、結果はどうなるでしょうか。火を見るよりも明らかです。

●引力は私の意志で持ち上げている間もたえず働いています。法則は決して疲れませんが、私たちの意志は疲れるのです。頑張れば頑張るほど、引力の力は大きくなるように感じるのです。そしてついに、私の意志はこの法則の力に完敗してしまうのです。

●パウロは最初、罪が法則であることに気づきませんでした。ですから、彼は自分の意志で頑張ったのです。ところが彼が罪は法則であると気づきました。おそらく、律法が法則・原理と同義だと気づいた最初の人ではないかと思います。最初彼は罪が法則であることを知りませんでした。次第にそれが法則であること、つまり自分の意志では勝つことができない力だと知ったのです。啓示されたと言った方が良くいかもしれません。善をしたいと思えば思うほど、自分の内に働く悪、つまり罪の法則があることを知らされたのです。善をしようとすればするほど、それにぴったりと寄り添うかのように罪の力も働くのです。しようとすればするほどです。なぜなら、そこに働くのは法則だからです。平和な世界を打ち立てようとして頑張れば頑張るほど、反対に争いが起こってくるようなものです。

●ローマ書 7 章はまさに「意志と法則」の壮絶なバトルとその結果が記されているのです。その結果とは、パウロの完敗の叫びです。意志をもって立ち向かおうとすればするほど、失敗と敗北を経験するのです。この意志をもって法則に立ち向かおうとすることを、聖書は「肉」と言っています(ローマ 8:6)。そして「肉の思いは死である」とはっきりと書かれています。人間的にどんなすばらしい意志、能力があり、それをもって何かをしようとすればするほど、傷は深くなるのです。

●祈りの決意をしたとしましょう。祈りは重要だと知っていますから、それを実行しようとしています。ところが何度も失敗を繰り返すのです。そして次第に自分の決心さえも自信が持てなくなって、祈ることすらやめてしまうのです。意志の努力がどんなに強くても、法則には勝てないのです。神は私たちが完全に降参するまでそれを繰り返させる方です。いわば据え置かれる方です。つまり、私たちが自分の力に「もうだめだ」と見切りをつけるまで黙って見ておられるのです。法則は私たちの力を消耗させ、無力にします。このことを深く、自分の胸に手をおいて考える必要があります。「肉の思いは死です」とあるように、法則に対するすべての戦いは不毛なのです。律法主義の弱点はまさにそこにあるのです。

3. キリスト・イエスにある「いのちの御霊」が法則であることを信じること

●とすれば、私たちはどのようにして勝利することができるのでしょうか。罪の法則に対していかにしたら勝利することができるのでしょうか。それが 8 章なのです。ただし、決して 7 章を軽く見てはなりません。

私たちの多くがこの 7 章に閉じ込められているからです。7 章を通らないで、すぐさま 8 章に行くことは

無意味なのです。ここで注目したいことは、「こういうわけで、・・・なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の原理が、罪と死の原理からあなたを解放したからである」(8:1,2)。勝利の道は、いのちの御霊の法則です。「御霊の法則が、～の法則からあなたを解放した」と言っています。

●罪が法則であるということを知るまで多くの時間がかかります。罪が法則であることを知ることは大きな発見です。悟りです。と同時に、御霊もまた法則であるということを知ることはさらなる大発見なのです。より高い法則がより低い法則を征服できるからです。例えば、運動会などで風船を上げることがあります。風船の中には水素が入っています。水素は空気よりも軽いために、それを風船に入れることで浮力が働いて上昇しようとし、上昇させるために何の努力も要りません。風船の紐を私たちの手からただ離すだけです。黙っていても風船は上昇して行きます。このように、私たちが罪と死の法則から解放されるためには、御霊の法則にゆだねれば良いのです。何の力みも要りません。意志が働かないところに、法則がよりスムーズに働き始めます。

●もし私たちが、私たちの内に与えられている御霊に自分をゆだねるならば、力を抜いて御霊にまかせるなら、いのちの御霊の原理が働いて、私たちが罪と死の原理から解放してくださるのです。私たちの努力や頑張りの要らない世界の法則なのです。罪と死の法則が働かなくなったわけではありません。それは依然としてありますが、風船が引力の法則に逆らって上昇するのです。同様に、御霊の法則があることを信じてその法則(御霊)に自分をゆだねるなら、御霊の法則が働いて、私たちがなすべきことをしてくださるのです。

●私たちが自分の力ですることは何もありません。ただ御霊なる方の臨在を仰いで、いつもその方と交わり、その方の導きに従うことです。御霊に従うことが勝利への秘訣ですが、そのためには、御霊を信じて、御霊の法則を信じて、その方にまかせるという信仰の修練(訓練)を積み重ねなければなりません。私たちが失敗するのは、御霊の導きにゆだねずに、自分自身の考え(肉)に従おうとするからです。御霊の存在に気づかずに、いつでも、なんでも自分の考えに従って歩もうとすることは、多くの悲哀と霊的貧困以外の何も与えないのです。私たちの不従順は不必要に私たちを迷わせるだけです。

●あなたはすでに神の子だとされています。ですから、あなた以上に神が御霊を通して導きたいと願っておられるのです。その方の導きは決して強引ではありません。静かな声によって導きます。その静かな内なる声に耳を傾けさえするなら、そこにとどまり続ける限り、私たちは罪の法則から解放されるのです。具体的には、自分の意志を貫こうとするのではなく、「主よ。私はどうすればよいですか。あなたに従います。どうか導いてください。」と祈って、主導権を御霊に明け渡してみましょ。御霊の声を心の中で聞くことができるはず。その導きを体験できるはず。こうした経験は決して特別なことではなく、神の子どもたちに対する神からのすばらしいプレゼントなのです。